

今月の例会報告

変わる農業現場！IT技術で業務改善 三浦農場 見学例会

7月13日(金)、農業新技術グループが企画する7月例会が開催されました。テーマは、「GPS自動操縦でパート社員も機械を操作！変わる農業現場！IT技術で業務改善」。十勝管内・音更町で畑作4品を中心に約100haの耕地面積を営農する三浦農場 三浦代表を訪ねました。同社は、GPSを活用したトラクターの自動操縦により、入社間もない女性のパート従業員もトラクターを操作。他にも、農業機械にカメラを搭載し視認性を高めることで機械操作をしやすくしたり、よく使う工具セットを各機械にお手製でセットするなど、無駄なく誰でも仕事がしやすい工夫を随所に凝らしています。「自動操縦のトラクターに経営者が乗ってまっすぐ走ったと喜んでいてはダメ。社員に任せ、その時間で経営の次なる一手、畑作4品+「プラス1」に取り掛かる」と三浦代表は語り、会期真っ只中の第34回国際農業機械展のサブタイトルである「ICTとともに更なる未来へ」を現場で学んだ1日となりました。



道内第一号で畜産GAP取得 (株)大野ファーム. 見学例会

7月5日(木)、GAP・HACCPグループ企画の7月例会を開催。2017年3月に基準が公表された畜産JGAPを道内第1号、肉用牛では全国第1号で取得した(株)大野ファームを見学しました。

同社は、約4000頭の肉牛を飼育しホクレンを通じて全国のスーパー等に出荷。2017年3月に農場HACCP、同年10月に畜産JGAPを取得しています。HACCPは2015年から取得に向けた準備に動き出し、当初は事務方で準備し手早く取得することも考えたものの、なんちゃってHACCPにしないために現場で作業にあたる社員を巻き込んでの取得に取り組みました。畜産JGAPはHACCPを取得していたことで半分以上の項目がすでにクリアできていたこともあり早い段階で取得にとりかかりました。現在は、月1回獣医を交え現場で働く社員全員でHACCP会議を開いています。大野社長は「HACCPの良さは自社の生産工程を見直せる、GAPは農業の見直し、履歴管理ができること。取得した次なる課題は『いかに現場で生かしていくか』』と語りました。



30周年特設ページオープン

部会設立30周年「情報発信事業」の特設ページが7月5日(木)、十勝毎日新聞電子版の農業専門サイト「農+ビジネス北海道」内にオープンしました。週2回程度のペースで部会メンバーを掲載しています。

特設ページはどなたでも無料でご覧いただけます。

▼特設ページ「TOKACHI HARVESTERS」
(勝毎電子版「農+ビジネス北海道」内)

<http://agribiz-hokkaido.jp/tokachiharvesters/index.php>

今後の予定

● 第29回収穫感謝祭

今年は29回目にかけて「肉(にく)」をテーマにした企画をご用意しています！大地と太陽の恵みをこころゆくまで堪能いただけます。

★新企画！食べ比べ3本勝負

「ジャガ-1グランプリ」「乳-1グランプリ」「肉-1グランプリ」

★とかちバーガー、カレーもつ鍋、ステーキハウスなど

会場販売あり！

日 時／ 2018年8月26日(日) 10:00～14:00

会 場／ 十勝農協連 家畜共進会場(アグリアリーナ)

参加費／ 2,500円(前売りチケット制)

【チケット引換内容】 焼台は無料開放です

ジャガイモ2種類、玉ねぎ合わせて10キロ相当つめ放題、大根1本・スイートコーン2本・牛肉200グラム